

8/25 (日) 18:00 kick off @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

2019J2 ■順位表 ■暫定：第28節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	柏	52p	+23	42	19	A●
2	大宮	52p	+17	40	23	A● H△
3	京都	51p	+14	43	29	H△ A●
4	横浜FC	48p	+15	45	30	A●
5	水戸	48p	+15	34	19	H●
6	山形	47p	+11	32	21	HO
7	甲府	43p	+13	41	28	A●
8	金沢	43p	+13	36	23	H● A●
9	岡山	43p	-1	34	35	HO
10	徳島	40p	0	34	34	A●
11	東京V	38p	-3	36	39	H●
12	新潟	37p	+6	44	38	H●
13	長崎	37p	-2	38	40	H● AO
14	山口	33p	-5	41	46	A●
15	愛媛	32p	-6	31	37	A●
16	琉球	31p	-13	38	51	HO
17	千葉	30p	-9	34	43	A● H△
*18	鹿児島	27p	-14	32	46	H△
19	福岡	27p	-16	27	43	AO H●
20	町田	27p	-20	25	45	H●
21	栃木	24p	-15	22	37	A△
*22	岐阜	20p	-23	25	48	---

注) *は消化試合が1足りない

today's guest : **柏レイソル**

2018 J1 12勝 3分 19敗 勝ち点39:17位

直近の対決と結果	ここ3試合の公式戦の結果	
2019/06/01 J2-16節@三協F柏	FC岐阜	柏レイソル
柏 1-0 岐阜	2019/08/17 J2-28節@石川西部 金沢 1-2 岐阜	2019/08/17 J2-28節@トラス 長崎 1-2 柏
	2019/08/11 J2-27節@長良川 岐阜 0-2 福岡	2019/08/14 天皇杯@三協F柏 鳥栖 1-0 柏
	2019/08/04 J2-26節@トラス 長崎 1-3 岐阜	2019/08/10 J2-27節@三協F柏 柏 4-1 山口

●アウェイ長崎戦で勝利し、勢いを得たFC岐阜。連勝を達成し、最下位を脱出するべく迎えた8/11(日)第27節・ホーム福岡戦だったが、前半に自陣でのミスから先制点を奪われ、後半にも前がかりになったところで追加点を奪われ、0-2で19位(当時)の福岡に敗戦。1か月前には3-1で勝利した相手に対して、対照的な試合結果となってしまった。続く8/17(土)第28節・アウェイ金沢戦も、前半に守備のミスで2失点を追う展開に。後半に#3竹田忠嗣のゴールで1点差に追いつくものの、追撃はそこまで。1-2で8位(当時)・金沢に敗れてしまった。いずれの試合でも、自分たちの守備でのミスから相手に得点を許してしまっており、その立て直しが早急に求められる。

この2試合を連敗し、残念ながら勝ち点を積み上げられなかったFC岐阜。一方、他の下位チームは勝ち点を積み上げたため、21位・栃木との勝ち点差が4、20位・町田との勝ち点差は7と、その差が少し広がってしまった。しかし、同じ勝ち点差7で18位(暫定)・鹿児島が位置していることから、このあたりまでは十分に射程範囲内と言えるだろう。まだ今シーズンは15試合も残っている。とはいえ、これまでの実績からすればJ2残留ラインは勝ち点=シーズン試合数の前後、つまり勝ち点42あたりになることが予想される。現状では、これより毎試合で勝ち点1ずつを積み重ねても、FC岐阜の勝ち点の不足は7。これを取り戻すためには勝ち点3、すなわち勝利が絶対的に必要だ。

さて、今節の対戦相手は、柏レイソル。今季9年ぶりにJ2シーズンを戦うチームは、その当時、1年でJ2優勝→翌年にJ1優勝を達成したネルシーニョ監督・井原正巳ヘッドコーチを再招聘し、再び1年でのJ1復帰を目指している。シーズン序盤はJ2の戦いに慣れずに幾分足踏みした感があるが、徐々に本領を發揮して勝利を積み重ね、現在は10連勝とクラブ記録を更新中であり、そして首位に立っているチームだ。絶好調とも言える首位チームを相手にする最下位の岐阜としては、厳しい試合展開になることが想定されるが、粘り強く戦って勝利を掴み取りたい。

これまでの通算対戦成績は、岐阜の0勝3敗・0得点6失点。前回のホーム戦は0-2で敗れているが、9年前なので参考にならない。前回の対戦は6/1(土)アウェイ第16節、試合終盤までスコアレスドローで粘ったが、#26オルンガに決勝ゴールを奪われ、0-1で敗戦した。今節は、その借りをホーム・長良川で返したい。

柏には現在でもJ1クラスのタレント溢れる選手が揃っており、誰もが要注意選手と言えるのだが、その中でも12得点の#26オルンガと9得点の#9クリスティアーノには警戒しなくてはならない。個人技での得点もチャンスメイクもできる両選手を、岐阜の守備陣が封じ込めなくては勝利の糸口は見えない。また、柏のGK#23中村航輔は言わずと知れたロシアW杯代表メンバー。この守護神が立ちふさがるゴールをこじ開ける場面を、岐阜の攻撃陣には是非とも見せて欲しい。

そして8/16(金)には第2ウインドー(登録期間)が閉じ、各クラブは育成型期限付移籍などの例外を除けば、現有戦力で残りのシーズンを戦うこととなった。岐阜もこれまで獲得した#38塚川、#39馬場、#29ジュニオール・パホスの3選手に加え、#50當間建文(松本)を期限付き移籍で獲得。我々も、この戦力で今シーズンを最後まで戦い抜くこととなる。彼らの加入によってチームが活性化することを期待したい。

苦しい状況、厳しい対戦相手だが、だからこそ僕らFC岐阜サポーターは、前向きに選手を支えていかなくてはならない。そして何より、僕らはこのホームスタジアムで3か月以上、岐阜の勝利を目にしていない。今節こそ、勝利を。ホーム長良川で、万歳四唱を選手たちと共に叫ぼう。

(ささたく)

次回HomeGame

第31節 vs. 栃木SC

9/7(土) 19:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒場 ホームラン
名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)
年中無休 午後3時から営業
TEL.058-263-5201

Living in Woods
本庄工業株式会社
http://www.honjo-woodream.com/

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第27節】岐阜0-2福岡

●長崎に勝ったことで、最下位のままでけど20位（暫定）・鹿兒島と勝ち点差が3。この試合で勝てば降格圏を脱出できる可能性もある試合。そして、対戦相手は19位の福岡。1か月前には3-1で下した相手。この“6ポイントマッチ”は、絶対に負けられない一戦。

……だったんですけどねえ（溜息）。当然ながら、向こうもウチと同じこと考えてる訳で。岐阜の守備ブロックはこの試合でも機能していたとは思っただけど、ボールを奪ってから前線への展開が、なんとなく窮屈になってしまっている感覚。福岡の攻守の切り替えが、前回の対戦よりも速くなってたんだと思う。1失点目は、ボールを奪ってから攻撃に繋ぐ際に、自陣で再びボールを奪われてからのミス。そして、守備ブロックで侵入は許していないのに、ゴール前に放り込まれたクロスを手相手に触らせてしまっている。不運なタイミングだった面もあるけれど、もっとクロス対策を徹底しないと、折角の守備ブロックが意味をなさない。再構築して欲しいと思う。それと、現在のウチのキーマンである#5川西翔太へのチェックが厳しくなっていたかなあ……。まあ、あんな豪快なミドルを前回決められたりしたら、そりゃ徹底的にマークするとは思いますが（苦笑）。ただ、だったらウチは#5川西に相手を引きつけておいて、他の選手が縦に仕掛けるプレーを多用しても良かったと思うけれど、そこまでの連携がなかった。そして、残念ながら前回の対戦では福岡に#8鈴木惇や#17松田力がベンチにもいなかったけど、今回はスタメンだった。その違いも大きかった。後半になると岐阜が徐々に押し込む状況が続くようになってきたけれど、決定機は生まれない。逆に福岡に守備を固められてカウンターを狙われるような展開に。そして、そのカウンター攻撃で途中交替で入った#10城後寿にゴールを決められ、2失点目。一方の岐阜は…前半にバーを叩いた#3竹田忠嗣のミドル以外は、“決定機”と呼べるようなシーンは作り出せなかったかも…（溜息）。快勝した長崎戦とスタメンは同じでも、全く違う結果になる。やっぱりサッカーは難しいし厳しいものだと思わされた、厳しい結果になってしまった。

だけど、下を向いている場合じゃない。次の試合も、その次の試合も、岐阜の勝利を信じて応援を続けます！

（ささたく）

●危険とか冒険という言葉は、確かにこの季節の代名詞みたいな時代もあるにはあった。

でも、正真正銘、身体の危険を感じる酷暑のスタジアムへ、よくぞ7千人を超える方に集まってくれました。素晴らしいです。多少は気温も下がったとはいえ、キビシイ状況で最後まで奮闘してくれた選手達には心からの敬意を表します。できれば、勝ち点を取らせてあげたかった。語弊があるのを承知で言えば、あんな当たり損ないの、しかも、オウンゴールとなってもおかしくないようなのがゴールになってしまうのに、スーパーな一撃は枠に阻まれてしまうなんてね。しかも、その跳ね返りが絶好の位置に落ちて、あとは枠内に入れさえすれば……というヘッドが決まらない。負け惜しみかもしれないが、勝てる要素はそこかしこにあった。これまでも、この時期の6ポイント・マッチはことごとく落としているような印象がある我がクラブ。もう少しで残留圏内に手が届くところだったんだが、また仕切り直しだな。もちろん、福岡も必死だし、前回の対戦のお返しをされた格好になったね。大雑把すぎるけど、前回の対戦で不在だった向こうの8番にいいようにされてしまった感は否めない。北野さんのことだから、当然、対策というか、ケアはしてたんだろうが実にもつたない敗戦。前節の長崎戦の快勝を活かすことが出来なかったのが悔しい。現状を抜け出すためには、連続の勝ち点、端的に言えば連勝が必要。チャンスは十分にあったと思うんだがなあ。本当に残念でならない。でも、そんなカンタンにできるようならこの順位にはいないからね。

ともかくにも、済んでしまったことはしょうがない。次節はウチの2倍も勝ち点を積み上げている金沢が相手だけれども、どこをやってもウチより上の順位ばかり。キツイのは一緒だ。それでも、やりぬかなきゃ残留は出来ない。現地で一杯後押ししてきます！

（ぐん）

●北野・岐阜の初勝利となった博多森の福岡戦からそんなに日も経ってないので、結構大きな期待をしつつの観戦だったのだけど、現実にはシビアだった。福岡だって残留に向けて必死なのだ。おめおめと「勝ち点6マッチ」をダブルで落としたりはしない。「博多森にはいなかった鈴木惇が長良川にはいた」「戦術は川西」色が濃くなっている岐阜の攻撃は、彼を自由にさせなければ破壊力が半減する」という、相手のいたって冷静な試合運びに絡め取られてしまった。

博多森では4CB的の上がり自重していた右のタクミがこの日は最初から前に行くことが多く、そうなるとう然だけれど彼の裏を狙われることが増える。福岡の先制点はそこから生まれてしまった。一方、攻撃面で期待の新加入ジュニオール・バホスは「パスをもらったら自分でシュートまで持っていくなさい」とお祖母ちゃんの遺言で言われているかのように（笑）周囲を使うそぶりも見せない。1点決めてくれたら剥けそうな気もするが、それまでは『攻撃の終点』になってしまうかもしれない。

監督が変わって、岐阜のサッカーは変わった。とはいえ、もちろん、その変化にずっとつきあってくれる相手ばかりではない。「間に合ってくれるんじゃないか」は「間に合ってくるといいなあ」に、ちょっとトーンダウン。厳しい戦いが続くけれど、それはいきなり降って湧いた危機ではない。受け入れて、自らの力で打開するしかない。打開出来なければ、来年はJ3。それだけの話だ。

（吉田鑄造）

【第28節】金沢2-1岐阜

●前節に残念ながら“6ポイントマッチ”を落としてしまい、これ以上は勝ち点差を離されたくない状況。隣県チームとの“白山ダービー”、しかも土曜開催ということもあり、多くの岐阜サポが金沢に駆け付けた。

この試合が始まる前で4戦無敗で8位の金沢。シーズンを経る毎に徐々に順位を上げている。ヤンツー（注：金沢・柳下監督の愛称）、いいチームを作ってるよなあ…しかし、8/14（水）に悪天候の中で天皇杯3回戦を広島で戦って、しかも翌日は新幹線が止まったから移動でかなり消耗してるハズ…と思ったら、天皇杯ではスタメン総入れ替えしてるじゃないですか。どーゆーことですかヤンツー、天皇杯捨てたんですか（苦笑）。結局、途中出場した2選手以外はフレッシュなメンバー。“ダサンダー”な僕の目論見は、見事に外れたのでした。それにしても、スタジアムでは「猛暑に注意！」と呼びかけてたけど、僕ら岐阜サポは「え？涼しいじゃん」と（苦笑）。この気温の違い、岐阜の猛暑はやっぱり選手のパフォーマンスに影響してるんだろうなあ……（溜息）。

さて、岐阜のスタメンは…おっと#5川西翔太がベンチ！？…ということは、前半は無失点で終えて、後半に#5川西を投入して、攻撃のスイッチを入れて勝つ作戦なんだろうと思った。ところが、だ。試合序盤から金沢#30山根永遠のドリブルに、岐阜の守備陣は掻き回されてしまう。何度か決定機を作られ、ボックス内で倒してしまってPKを献上し、先制点を許してしまう。2失点目は、中央に放り込まれたボールを#10垣田裕暉に触られてのゴール。その前に簡単にクロスを上げさせられているのも問題だけれど、福岡戦の1失点目と似たパターンでの失点。この2失点で、岐阜のプランは崩れてしまった。後半に予定通り(?)#5川西を投入すると、攻撃のペースが上がり、試合の流れは岐阜に傾く。だけど、フィニッシュの直前で連携にミスが出る。例えば、中央から#11

前田遼一がダイアゴナルに走って相手ボックス角あたりでボールを受ける場面が何度かあったけれど、そのチャンスで中央に走り込んでボールを受けようとする動き、あるいはサイドからサポートする動きがなく、結局相手に囲まれてボールを奪われていたと思う。フィジカル面でも走り負け・当たり負けをして、折角奪ったボール・こぼれたボールを再び相手に渡す場面も気にかかる。#10 ライザのシュートの跳ね返りに#39 馬場賢治が反応し、#3 竹田忠嗣が押し込んだゴールで1点を返したものの、反撃はそこまで。金沢に逃げ切られて、1-2での敗戦。2試合連続でちょっと厳しい結果になってしまったけれど、下を向いていたって週末には試合がやってくる。次の試合を見据えて、そのためにしっかりと準備をして、次こそ勝利を！勝ち点3を！

(ささたく)

●昨季は台風が直撃するかどうか、試合が開催されるかどうかでやきもきしたアウェーの金沢戦。今季も台風の影響が心配されたけど、どうにか無事に通り過ぎてくれたのはありがたかった。満を持して臨んだ石川県西部緑地公園は夏が存分にその威力を発揮していたけれども、海伝いの風が止むことなく吹き抜けていたから、木陰に入るだけで心地よく眠れてしまう。ウチのホームとはエライ違いでうらやましい限りだ。まあ、うらやましいのはそれだけなんだがね。いや、試合運びとか、チームの成熟度は多少うらやましく思わないでもない、か。実際、プレーオフ圏内を窺おうとする位置をキープしているわけだから生半可な相手ではないとは思っていた。それでも、十分勝機はあるだろうと。でもねえ、PKを与えた場面を含め、しっかり対応してさえいれば……というケースが悔やまれる。セットプレー、高さ対策はそれなりにできていたように見えたんで、前半の2失点が返す返すも悔やまれる。1点差に詰め寄るゴールは得点者の竹田を始め、全員の気持ちが込められたものだったが、やはり2点差を追いつき、さらに勝ち越すのはなかなか難しい。いや、この節では2点ビハインドから後半だけで4点取って勝ったチームもあるみたいなんで説得力には欠けるかもしれないが。試合後のコメントなどを読むと、前半は守備に意識を置いて0-0で後半勝負だったように思うが、にもかかわらず失点、しかも複数失点を喫してしまうとね。

次節は絶好調の首位クラブ。相当キツイ相手ではあるが、その後に順位の近いクラブとの連戦を迎えるだけに、どうしても勝ち点がほしい。内容はどうであれ、勝利に、もしくは勝ち点にこだわって戦い抜いてほしい。ゴール裏から精一杯後押しします。共に戦いましょう！

(ぐん、)

8/24 時点の J 3 順位表。

1	藤枝	37p	+8	28	20	残り 14	
2	群馬	35p	+17	37	20	残り 14	★2019 ライセンス

3	熊本	35p	+5	29	24	残り 14	★2019 ライセンス
4	北九州	34p	+8	26	18	残り 14	★2019 ライセンス
5	C 阪U	33p	0	33	33	残り 14	
6	鳥取	31p	-2	32	34	残り 15	★2019 ライセンス

クラブライセンスにおけるスタジアムの条件が緩和され、藤枝も J 2 ライセンス申請が可能になった……という情報がネットにありました。ライセンス審査はスタジアムの他にも経営状況などにもあるので藤枝に J 2 ライセンスが降りるかは9月末次第ですが、その結果次第ではこの順位表があまり意味を持たなくなるかもしれません。

『岐大通』では F C 岐阜の J 2 残留が決まるまで、J 3 情報を掲載していきます。(編集人：吉田鑄造)

